

<b>東海市立船島小学校</b> 住 所 東海市富木島町船島1の1 電話番号 052-604-3536 児童/生徒 321名 校長名 石原 和彦 ｸﾗｽ14学級(内 特支2)		○教育目標 ○輝く学校づくり ○地域の特色	・心や体をきたえ、たくましく生きる子どもの育成 ・人とふれ合い 自然とふれ合い 豊かな心を養おう ・古くからある姫島地区と、比較的新しい伏見地区に中央町の一部、上瀬木、東広、藤島などの団地がある。コミュニティ活動もさかんで、地域の結びつきは比較的強い。
--	--	-----------------------------	--

中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】平成29年3月7日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知 進んで学ぶ 問題解決に 努力する	「分かる授業」「楽しい授業」を目指し、「『めあてと振り返り』」を大切にしながら児童の学びの意欲を向上させる。	学校評価アンケート 児童18内容が分かる、19楽しい、20先生は熱心に教えてくれる	(評価A)「よくあてはまる」の回答は、「内容が分かる」は2.0%、「楽しい」は14.3%、「先生は熱心に」は7.3%どれも増加している。児童の好奇心を掻き立て、児童が楽しいと感じる授業を展開していることが要因と考えられる。	「内容が分かる」「先生は熱心に」の肯定的な回答の合計を見てみると、昨年より減少している。分かる授業をしていると自信をもっている教員も減少しているため、現職教育において授業技術の力量を高める。	・絵や図などの具体物を使って、分かりやすい授業を展開してよい。 ・児童が「内容が分かる」とか「先生は熱心に」と評価しているので、教員はもっと自信をもって授業を行ってほしい。	・教務主任、現職主任を中心に、「学びの土台」についての定義付けと内容の共通理解を図ることによって、現職教育の授業研究活動を充実させていく。
	学習規律を定着させ、集中して学習に取り組ませ、基礎基本の定着、学力向上につなげる。(凡事徹底、学力向上)	学校評価アンケート 児童11授業をしんげんに受けている、12よいしせいで学習、13名前をよばれたら返事、14話す人のほうを見て聞いている。	(評価A)どの項目も肯定的な回答が増加している。特に「よいしせい」については、9.3%増加している。凡事徹底を行い、よりよい学習規律が身につけていると考えられる。	よりよい学びは、よりよい学習規律から生まれるものであることを意識し、今後も凡事徹底を行い、児童が自然とできるようにしていく。	・学習態度は、学校公開日の様子などからも目に見えてよくなってきている。 ・自分の考えを発表する場面が多いが、すばらしい考えをもっているのに声が小さいのが残念である。	・学習規律の振り返りアンケートを継続して行い、児童の意識化を図る。 ・長期休業明けの課題テストやCRTを継続し、定着している内容には自信をもたせ、そうでないところは補充をしていく。
徳 あいさつ 思いやり	異学年交流を進め、相手の立場を思いやり、お互いの言動を尊重しあえる心を育てる。	学校行事や、ふれあいグループでの活動の様子、子どもたちの反省をとらえ、心の育ちを確かめる。	(評価A)七夕集会や運動会、ふれあいグループの活動など、よい表情で互いに思いやる姿が本年も多く見られた。特に、リーダーにとっては効果が大きな活動となっている。	ふれあいグループの活動の中で、6年生のリーダー性から学んでいるところが大きい。今後も継続して行い、学年を超えた思いやりの心を育てていく。	・高学年のリーダー・シッポの成長が著しい。低学年は、高学年のよいところをみて、学ぼうとしている。この活動は、今後も必ず継続してほしい。	・ふれあいグループの活動を継続、充実させる。 ・高学年のリーダー指導を継続、充実させる。
	道徳教育など様々な機会を捉え、心のつながりを大切にして、温かい人間関係の確立をはかる。	学校評価アンケート 児童06いじめは見られなく、07そうじをしっかりと、08あいさつができる	(評価B)「いじめ」、「そうじ」については肯定的な回答が増加しているが、「あいさつ」については減少している。あいさつ運動を行っても、あいさつをかける側は元気よく行っているが、それに対して返す児童が少ない。	「いじめ」については、今後も早期発見・早期解決に努めていく。「あいさつ」はお互いに行うものであることを考えさせ、あいさつ運動も返す側に重点をおいて行う。	・校外で会った時にも、高学年の児童から先にあいさつをもらった。校外でもあいさつしようとする意識が高まっていると感じる。	・生徒指導主任を中心に児童の情報を職員間で共有し、いじめ等の未然防止に努める。 ・あいさつなどできた時には、しっかりできたことが分かるように認めてやり、自信をもたせる指導をする。
体 生活習慣の 確立 進んで体力 づくり	「早寝・早起き・朝ごはん」「歯磨き」「排便」の習慣化に努め、健康な生活が送れるようにする。	学期ごとに「せいかつ調べ」を行い、生活習慣が確立されているかどうかを分析する。	(評価B)「朝ごはん」と「歯みがき」は、90%近くの児童が毎朝行っている。しかし、「排便」は53%「就寝時間」は38%の児童しか習慣化されておらず、大きな課題である。	生活習慣は、家庭状況が大きく影響する。特に「就寝時間」については大きな課題である。家庭への働きかけを強化していかなければならない。	・「就寝時間」や「排便」については、教員が指導をしていくには、今行っている家庭にたよりを活用する以上の手だてがないように思われる。	・「せいかつ調べ」を継続して行い、児童の意識化を図る。 ・養護教諭を中心に、保健だよりなどを活用した保護者への情報提供を強化する。
	運動量の確保に努め、健康で力強い体づくりにつなげる。	縄跳びカードやマラソンカードの内容から、運動量の確保や意欲について分析する。	(評価A)期間を設定して縄跳びやマラソンを行い、多くの児童が自分の目標に向けて意欲的に行っていた。例年と比べマラソンを休む児童が少なかった。	縄跳びもマラソンも児童が目標意識をしっかりと取り組める今後も工夫していく。	・体育以外の時間でも、積極的に運動を行おうとする児童が増えていることはよい。この姿勢を継続させてほしい。	・体育主任が中心となり、体力づくり活動に対する児童の意識が高まるよう、児童のがんばりが目に見える方法を工夫していく。
地域連携 誇ってもらえる学校	学校支援ボランティアを軸に地域連携を深める。また、フナビオ会の活動を活性化し、地域に根ざした学校づくりを進める。そのために効果的は情報発信に努める。	学校評価アンケート(地域) 学校支援ボランティアの活動状況、月に一度のフナビオ会への参加人数から評価する	(評価B)「よい学校だと思う」のアンケートでは、昨年度より肯定的な回答は増加しているが、「よくあてはまる」の回答は減少している。フナビオ会の活動については、他の学校へ自慢できるものとしているものの、「楽しい」と感じている児童は微減しており、参加児童も昨年度より減少している。	フナビオ会の活動のあり方を検討する必要がある。予算が大幅に削減されることになり、今年度と同じ活動では、ビオトープを維持していくことだけでも課題が多い。フナビオ会・新川会と検討していかなければならない。	・地域の施設に対する6年生の感謝の清掃活動は歓迎したい。児童に感謝の気持ちも育てている。 ・ビオトープ活動は、発展させるよりも維持することをめざしてほしい。 ・教員の地域への関心度が徐々に低くなっているように感じている。	・学校支援ボランティアについては、校務主任・教頭が窓口となって活性化していく。 ・ビオトープ活動については、新川会・フナビオ会と相談しながら活動が維持できる方法を探る。 ・情報発信を効果的に行い、地域連携がさらに深まるようにする。